

みち、ひと…未来へ。



進化高速

西日本高速道路株式会社

RECRUITING GUIDE



進化高速

誕生からおよそ半世紀。

高速道路は、日本の成長を支え、
ともに歩んできた。

そのあいだ、人やモノだけでなく、
夢や希望も運んできた。

社会の変化やIT技術の進化によって、
高速道路に求められるものも
変わってきた。

より安全に、より高度に。

社会課題を解決する道を新しく造り、
守り、高め、広め、支え、
よりよいカタチに進化させていく。

新しい物流のカタチへ、
新しい暮らしのカタチへ、
新しい日本へ。

それが私たち
NEXCO西日本の使命です。

トップメッセージ TOP MESSAGE

西日本高速道路株式会社
代表取締役社長

芝村 善治



未来へつながる社会インフラとして 高速道路を“進化”させる

100年先の未来、高速道路がどうなっているのか、みなさん考えたことはありますか？ 私は、100年先も変わらず高速道路が経済や生活を支える基盤ネットワークとしての役割を担い続けていると考えています。

近年、私たちを取り巻く環境は、人口減少、さまざまな気候変動、DX・GX、ICTの進化による暮らし方、働き方の変化等、大きく変化しております。

そのような変化の激しい時代だからこそ、高速道路の未来像を描き、そこから、「いま何をしなければならないのか」を考え、進化し続けることが、高速道路の使命や役割を果たすために必要だと考えております。

高速道路が進化し続けていくための担い手となるのが、みなさんのような若い世代の方々です。安全・安心で快適な道路サービスの提供を基本に、「新名神高速道路」の建設、老朽化が進む高速道路を最新技術でよみがえらせる「リニューアルプロジェクト」、4・6車線化事業、物流問題解決を目的とした駐車マス拡大事業、多様化するニーズに対応していくサービスエリア事業や地域共創活動、そして海外への技術展開の推進等、新たな価値を提供していきます。

NEXCO西日本は、日本初の高速道路として1963年に名神高速道路（栗東IC・尼崎IC）を開通させた歴史があります。ゼロから1をつくり、未来に向けて進化させていく。こうしたチャレンジ精神とチームワークをNEXCO西日本は大切にしています。失敗を恐れず、様々なフィールドで多様な人材と切磋琢磨し、共に成長していきましょう。“高速道路を通じ、地域の発展と豊かな未来の実現に挑戦したい”そのような使命感や気概をもっている人と共に次なる一歩を踏み出せるときを楽しみにしています。



PHILOSOPHY

みち、ひと…未来へ。



安全・安心・快適な高速道路が結ぶ、人と人、地域と地域。

夢ひろがるアイデアと、心のこもったサービスで

新しい出会いやよろこびを生み出します。

NEXCO西日本は、100年先の未来に向け
技術の革新と新たな価値の創造に挑み続けます。

ブランドスローガン

みち、ひと…未来へ。

このブランドスローガンには、
右記のブランドアイデンティティで
述べられた想いが込められています。

ブランドアイデンティティ

高速道路に変わらぬ安全と、
これまでにない感動を。

高速道路の安全・安心・快適を高いレベルで実現し、お客さまとの様々な出会いの場で、満足とよろこびを提供する。NEXCO西日本は、高速道路の価値を高め、新しい感動を生み出していきます。

地域を愛し、
地域とともに生きる。

地域のひと、まち、もの、情報をつなぎ、より豊かな社会を目指して、積極的であり続ける。NEXCO西日本は、地域を愛し、ともに発展していく良きパートナーを目指します。

たゆまぬ技術の革新で、
100年先の未来へ。

100年先にも、なくてはならない高速道路のために。100年先にも、社会に役立つ企業であるために。NEXCO西日本は、未来へつながる様々な可能性を求め、技術の革新に挑戦し続けます。

グループ理念

私たちは、高速道路の安全・安心を最優先に、
高速道路の進化に挑み続け、
地域の発展と豊かな未来の実現に貢献します。

事業エリアとミッション

高速道路ネットワーク機能を
進化させる

2005年に誕生したNEXCO西日本。

前身の日本道路公団から、近畿以西、24府県のエリアの事業を引き継ぎ、
物流や経済、暮らしを支える高速道路ネットワーク機能を提供しています。

時代とともに変化する社会ニーズに応えていくために、
高速道路サービスを進化させ続けています。

BUSINESS AREA

事業エリア

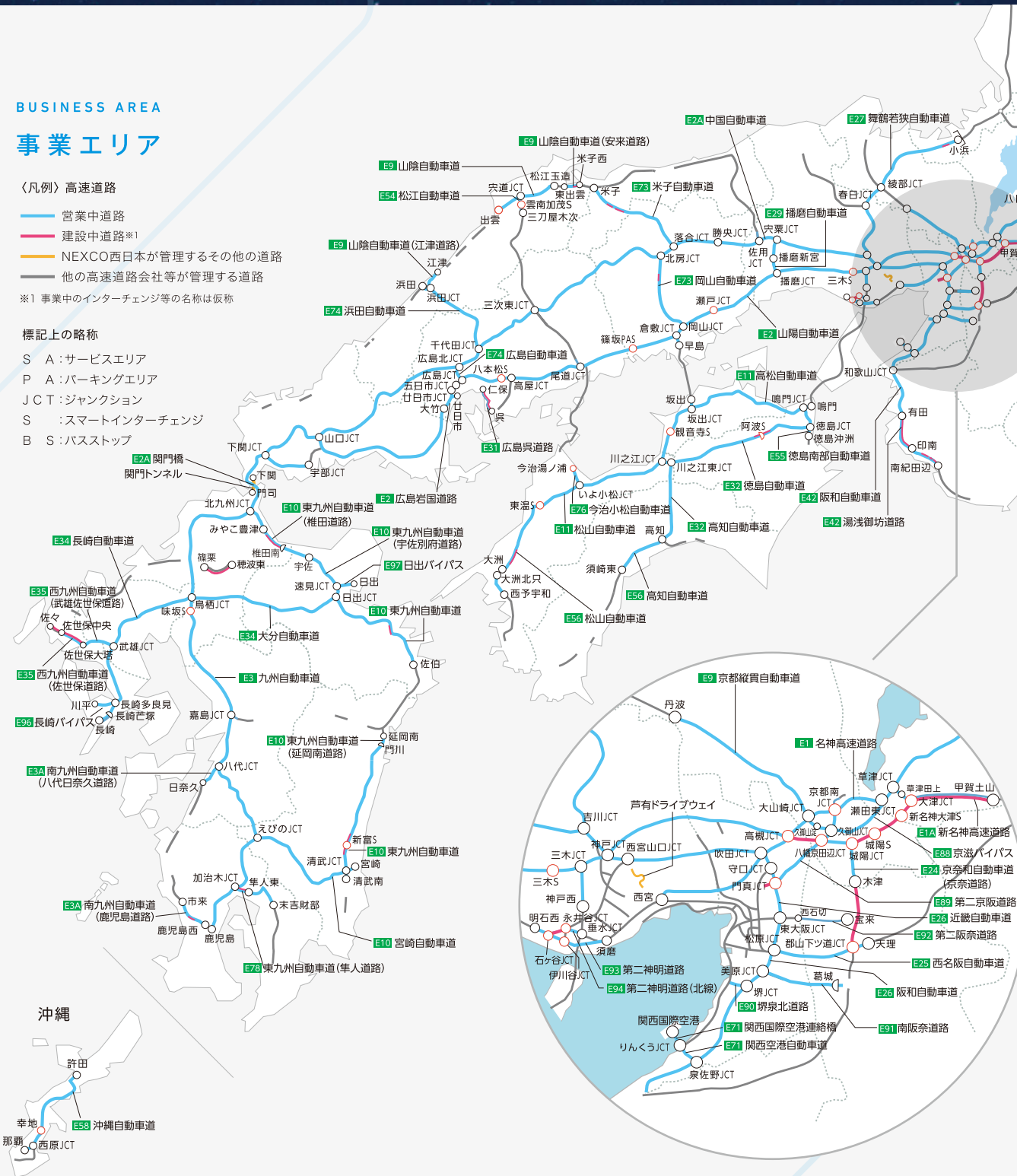
〈凡例〉高速道路

- 営業中道路
- 建設中道路※1
- NEXCO西日本が管理するその他の道路
- 他の高速道路会社等が管理する道路

※1 事業中のインターチェンジ等の名称は仮称

標記上の略称

- S A : サービスエリア
- P A : パーキングエリア
- J C T : ジャンクション
- S : スマートインターチェンジ
- B S : バスストップ



MISSION

NEXCO西日本のミッション

高速道路事業を通し、社会に提供する価値

高速道路が、
地域の魅力発信の入り口に

地域にはそれぞれ魅力や特色があります。
その地域と地域を高速道路がつなぐこと
で、物流や観光をはじめ、経済活動が活性
化します。NEXCO西日本は、高速道路
ネットワークを軸に、産学官民連携を行っ
て地域の魅力を発信しています。

激甚化、頻発化する
自然災害から暮らしを守る

NEXCO西日本は自治体や自衛隊と協定を結
び、災害発生時に被災地の早期復旧や高速
道路利用のお客さまの安全の確保など、迅速
かつ円滑な災害対応ができるよう努めていま
す。また、橋梁の耐震補強や津波・洪水に備え
た避難施設などの整備も進めています。

01

物流



物流を支え、経済を動かす

コンビニに商品が並び、ネットで注文した
商品が予定通りに届くのも、高速道路が
あってのこと。事実、国内の貨物輸送の約
9割※が自動車輸送。高速道路は、日本経
済を動かす基幹インフラとして重要な役
割を果たしています。

※トンベース（国道交通省「令和3年版交通政策白書」より）

02

地域活性



一刻を争う命の道として

高速道路が開通したことで助かる命が
あります。救急搬送や医薬品の輸送など、
救急医療を支えるルートとして機能して
います。一部のSAには、ドクターヘリが離
発着できるヘリポートを整備。防災用品
を備蓄するなど、地域に役立てるよう努
めています。

03

命の道



04

災害時支援



01

高速道路の安全・安心を いつまでも守り抜く

NEXCO西日本が管理する高速道路の約5割が開通から30年を超え、老朽化が進んでいます。高速道路の安全・安心を守るために、ドローンや高性能カメラなどの新しい技術を用いた点検補修を定期的に行うとともに、橋梁やトンネルなどの構造物をリニューアルする「高速道路リニューアルプロジェクト」を進めています。

【重点施策】

- 点検補修の進化
- 大規模更新・大規模修繕の推進
- 交通安全対策の進化

新しいモビリティ社会に向けて 高速道路を進化させる

官民一体となって進められている自動運転の実現。NEXCO西日本でも、後続車無人隊列走行システム（東京～大阪間）の商業化に備え、トラックと乗用車いずれもが安全かつスムーズに走行できるよう、新名神高速道路の6車線整備を進めています。今後、自動運転等の技術革新に対応するため、必要なインフラ環境の整備に取り組んでいきます。また、次世代ETCや、料金所のキャッシュレス化・タッチレス化を推進しています。

【重点施策】

- 高速道路機能の進化
- 物流支援 ～休憩施設の充実～
- 料金所のキャッシュレス化・タッチレス化
- 道路情報提供の高度化
- 通信ネットワークの進化

VISION & PLAN

ビジョンと施策

進化2025

未来に向けたNEXCO西日本の取り組み

高速道路を進化させる中期経営計画「進化2025」の5つのビジョン

近年、地球温暖化やデジタル技術の急速な進歩により、高速道路に求められる機能や役割が大きく変化しています。NEXCO西日本は、こうした変化に柔軟に対応し、高速道路を「進化」させることで、社会から求められる役割や使命を果たしていきたいと考えています。その実現を目指し、中期経営計画「進化2025」を掲げ、5つのビジョンと重点施策を策定しています。NEXCO西日本の目指す未来や考え方を紹介します。

中期経営計画「進化2025」を
もっと詳しく知りたい方はこちらから

コーポレートサイト

WEBで見る

<https://corp.w-nexco.co.jp/corporate/plan/>



PDFで見る

<https://corp.w-nexco.co.jp/corporate/plan/download.html>



高速道路の 顧客体験価値を高める

ドライブの途中の休憩場所としてはもちろん、旅の目的地となるようなSA・PAづくりを目指し、店舗のリニューアルを進めています。デジタル化による行動分析やヒアリング等を通してお客さまを深く理解し、お客さまの多様な目的に着目した新サービスや店舗づくりを推進。地域の特色を生かした「ここにしかない出逢い」を演出し、より楽しくより快適にご利用いただけるよう開発を進めています。

【重点施策】

- 新しい価値を提供するSA・PAの進化

04

多発する自然災害から 地域と暮らしを守り抜く

高速道路は、まだまだ未完成。物流機能や緊急時の対応強化のために、「新名神高速道路」をはじめ、まだつながっていない区間（ミッシングリンク）の整備を進めています。また、自然災害の発生に備え、橋梁などの耐震性の向上、路肩拡幅や剛性防護柵の設置、のり面災害等の発生予測や早期発見を行う常時観測環境を整備するなど、高速道路そのものを改良し、減災に努めています。

【重点施策】

- ネットワークの進化 ～ミッシングリンクの解消等～
- ネットワークの強化 ～暫定2車線区間の4車線化～
- 高速道路の強靱化 ～耐震性の向上～
- 災害対応力の強化

持続的に進化する企業を目指す

地域や社会、環境保全に貢献する取り組みを推進するとともに、事業を推進する社員が活躍できる環境づくりに努めています。地域貢献として、SAで地域と連携したイベントを開催したり、市民共創による商品開発を行ったり、地域の魅力向上や誘客の取り組みを推進しています。また、ESGに関する取り組みを推進し、SDGsの達成に貢献します。

【重点施策】

- 高速道路を活用した地域貢献
- 社員が活躍できる環境づくり
- DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進
- 環境に関する取り組みの推進
～脱炭素社会に向けて～
- 海外事業の発展
- SDGs達成への貢献

職 種 と 仕 事

高速道路を造って守り、高め、広める

未来に向けて高速道路を進化させるために社員一人ひとりがミッションに挑む

NEXCO西日本には、事業を推進するための様々な仕事があります。

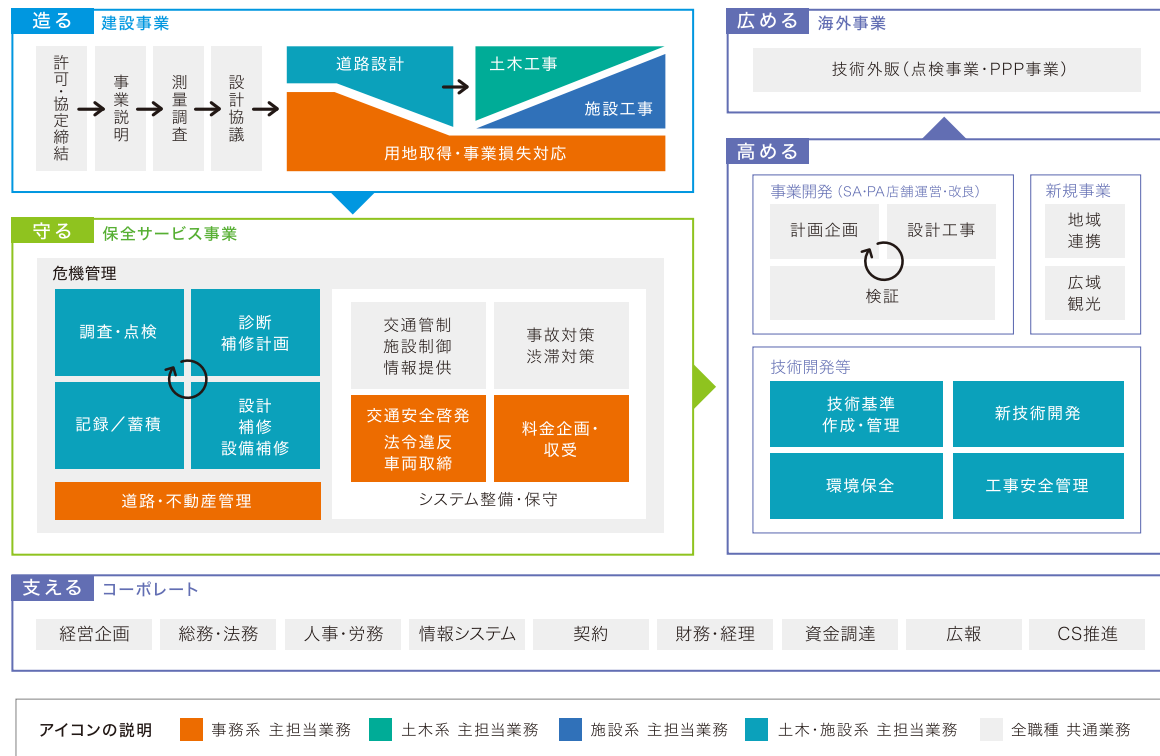
それぞれの事業と仕事内容を採用時の職種区分とあわせてご紹介します。

職 種 区 分 みなさんがこれまで学んできた学問や技術を活かせる、3つの職種があります。

職種区分と 学部・学科条件	事務系	事務	文系・理系問わず 全学部・全学科
	土木系	土木	土木・建設・社会基盤・環境・地球工学科及びこれに準ずる分野を学ばれた方
		造園	造園・環境・森林資源学科及びこれに準ずる分野を学ばれた方
	施設系	建築	建築学科及びこれに準ずる分野を学ばれた方
		機械	機械工学科・機械システム工学科及びこれに準ずる分野を学ばれた方
		電気	電気工学科・電気電子工学科及びこれに準ずる分野を学ばれた方
		通信	電気電子情報工学科・情報通信工学科及びこれに準ずる分野を学ばれた方

活 躍 の フィールド 造る、守る、高める、広める、支える。様々な仕事に携わるチャンスがあります。
事業を推進し、社員の活躍を支えるコーポレートは、ジョブローテーションですべての職種が担当します。

事業と主な職務内容



造る



建設事業 CONSTRUCTION

建設事業では、高速道路を新設または複線化(4車線／6車線化)する、「道を作る」業務を担っています。地域の方々や自治体、国、各種工事会社と協議、連携しながら早期開通をめざします。

事務	[用地]新井 翔斗	13P
土木	[土木工事]山縣 美和	15P
施設(電気)	[施設工事]古川 隆一	17P

守る



保全サービス事業 OPERATION AND MAINTENANCE

お客さまに安全・安心、快適に走行いただける高速道路空間を提供するため、道路と附帯施設の維持管理や予防保全、交通管理を行います。「高速道路リニューアルプロジェクト」も保全サービス事業の1つです。

事務	[大規模更新]山西 修平	21P
土木	[大規模更新]古賀 泰輔	23P
施設(建築)	[施設保全]濱 千鶴	25P

高める



事業開発／新規事業 BUSINESS DEVELOPMENT／NEW BUSINESS

技術開発／環境保全 TECHNICAL DEVELOPMENT／ENVIRONMENT

事業開発／新規事業では、SA・PAの開発や、地域連携による様々な事業の企画・運営に取り組みます。技術開発／環境保全では、道路構造物や附帯設備、環境保全のための新たな技術開発に取り組みます。

施設(通信)	[技術開発]三井 大和	33P
--------	-------------	-----

広める



海外事業 OVERSEAS BUSINESS

本社の海外事業部に軸に、米国子会社であるNEXCO-West USA, Inc.とインドネシア事務所を拠点として、点検技術の外販や開発途上国の高速道路開発プロジェクト(PPP事業)*、先進国道路PPP事業を進めています。



支える



コーポレート CORPORATE

経営企画、総務・法務、人事・労務、情報システム、契約、財務・経理、資金調達、広報、CS推進など、会社と社員を支え、お客さまや地域の方々に信頼いただける企業づくりを目指します。

事務	[経営企画／CSR]金本 淳希	29P
土木	[経営企画]山本 悠哉	31P



01

造る

建設事業

CONSTRUCTION

主な業務

社会の大動脈である高速道路ネットワークを構築し、地域の発展と暮らしの向上に取り組んでいます。

- 事業説明
- 測量調査
- 設計協議
- 道路設計
- 土木工事
- 施設工事
- 用地取得
- 事業損失対応 など

机上の図面が
橋梁やトンネルになる。
安全を最優先に、
社会と地域に
貢献する道を造る

現在進行中の主要建設プロジェクト

国土軸のダブルネットワークの整備という社会的使命を果たし、地域のさらなる発展と暮らしの利便性の向上、そして100年先の未来に向けて新しい価値を提供する「新名神高速道路」建設プロジェクトを推進しています。



01 1 造る 建設事業 用地担当 事務

高速道路づくりの
最初の一步を担う、用地取得。
大きな失敗から得た気づきを
忘れることなく、
地権者の立場に立って考え、
誠心誠意交渉に挑む

失敗からの学びが 「今」をつくる

「どうなっているんだ！」高速道路となる土地を取得するため、土地の所有者（地権者）に向けて説明会を行っていたときのことだった。用地課に配属されたばかりの新井は、地権者から向けられた質問にうまく答えられなかった。曖昧な返答はやめてくれ、と怒号が飛んだ。この出来事をきっかけに、自らの認識の甘さを思い知った。知識不足、現場の理解不足は、地権者の不安を煽ることになる。事前に入念な準備をした上で挑まなければ、と痛感した。用地課では、土地の取得のために、建設予定エリアの地権者のお宅を訪問したり、自治会の総会に出席したりして交渉を進める。「土地に思い入れのある方もいれば、補償金額が不満な方もいる。ましてや公共事業に対して良い印象を抱いていない方もいる。なぜここに高速道路をつくる必要があるのか、高速道路ができることによってどんな影響があるのか。わかりやすく丁寧に、そして相手の立場に立って考えながら説明しています。相手にきちんと理解してもらったうえで、土地売買契約を交わしたいですから」月に5～6回ほどある説明会の前には、自分が地権者だったら何が気になるのか、どんな情報を知りたいのか想定した上で、想定問答を作成して可視化する。また、あらゆる状況をふまえて誰が見ても分かる資料を作成し、常にチームの中で共有している。新井はあの日以来、絶対に交渉前の準備を怠らない。

ゴールまでの道のりは、 自分次第

用地課の仕事のゴールは、「地権者から任意で用地を取得する」こと。ゴールは決まっているが、そこまでのプロセスは各担当者に任せられている。1日で成果が出るものではなく、数年先を見据えた長いスパンの仕事となる。ゴールに向けて今日すべきことは何か、自分自身で組み立てなければならない。「やることリストを毎日作成し、重要度と緊急度を考えながら、スケジュール感をもって業務に取り組みます。他の人だったらどうアプローチするだろうかと自分に緊張感を与えることも。仮に今日手を抜いたとしても、影響が出るのは明日じゃない。1年後ですから」自分なりのアプローチで壁にぶつかった時は、上司に相談するようにしている。仕事に対するアドバイスのみならず、体調やメンタルケアなど、全体のマネジメントをしてもらえていると感じているという。「入社時、学歴を周りと比べてしまい、自分を過小評価していたときに、『これまでの経歴なんて関係ない。すべてはこれからの自分次第だよ』と言われ、とてもモチベーションが上がりました。今でもその言葉に救われています」これからは、自分が後輩たちを鼓舞できる存在になりたいと語る。新井の挑戦はまだまだ続いていく。



PROFILE

関西支社
新名神大阪西事務所
用地課
＜事務＞

新井 翔斗
ARAI SHOTO

2018年入社
法学部 法律学科 卒



入社動機

父が長距離トラックの運転手で、幼い頃は父のトラックに同乗して色々な場所へ連れていってもらいました。その時のことはいまだに覚えてます。そんな経験から、「父のように仕事で高速道路を利用する人に、より快適に利用してもらいたい」という思いを抱き、志望しました。私の入社が決まった時、父は泣いてよこんでくれました。

私のふるさと

〔広島県〕

日本一人口の多い町“府中町”出身です。世界的な自動車メーカー「マツダ」の本社や、中四国最大級の大規模商業施設があり、広島県の玄関口である広島駅から電車で約5分と利便性が高いエリア。温暖な気候と豊かな自然にも恵まれており、利便性と住みやすさを兼ね備えた町です。

これまでの経歴

2018年4月 入社
2018年6月 関西支社
滋賀高速道路事務所
管理第一課
2020年7月 現在の部署へ

オフの過ごし方

入社してからゴルフにハマリ、オフの日はゴルフの練習をしたり、月に1～2回程度ゴルフコースを回ったりしています。同僚たちとのゴルフ旅行も楽しみのひとつです。



01 2 造る

建設事業
土木工事担当
土木

現場へ足を運び、
積極的に「見て学ぶ」。
職人さんの声に耳を傾け、
共に新しい道路の
完成を目指す



マネージャーの経験が 活きた1年目

山縣が仕事で初めて達成感を得たのは、入社1年目に滋賀高速道路事務所で統括課の一員として働いていたときのことだった。支社、関係各所からの依頼や確認事項連絡を受けて、各担当部署へ伝達し、その回答を取りまとめて返す。いわば事務所の窓口のような存在だ。「次々に来るメールを見て、自分で動けることはすぐに動く。難しいものは先輩に教えていただきながら、自分で仕事を取りに行くようにしていました」それ以外にも、夜間通行止めや集中工事を行う際に必要な資料作成や協議の実施、工事を知らせる横断幕や看板の作成など、統括課の仕事は多岐にわたる。「統括の仕事は大変でしたが、達成感がありました。学生時代に野球部のマネージャーの経験があったので、向いていたのかもしれませんが」プレイヤーがいかにスムーズに動けるかを考えて行動する。それはどんな場面でも、必要な視点だ。工事が順調に進み、みんなとよろこびが共有できることが、サポート役としてのやりがいだと山縣は言う。



質問を重ねることで、 工事の現状を理解する

現在は、新名神高速道路の新設区域（大津～城陽間）の建設に携わる。建設の工事は大きく土工・橋梁・トンネルに分かれており、山縣は土工を担当している。もともと山だったところを切り開き、土を盛ったり、高すぎるところは切ったりして、道路となる土台を作っていく。自然が相手なので予定通りに行かないこともある。図面と現場を照らし合わせ、みんなで知恵を借りながら進めていくしかない。山縣は必ず現場に足を運び、その場を確認しながら現場の方々の意見を聞く。それを持ち帰り、今後の方針を決めていくのだ。「目的の場所を確認するだけでなく、気になるところは必ず質問すると決めています。質問することで、曖昧になっている点をなくし、進捗状況をしっかりと把握することができます」工事はスピーディーに進んでいく。だからこそ、積極的に現場で「見て学ぶ」ことが山縣のモットーだ。この新設区域が開通するころにはサポート役ではなく、当事者として完成のよろこびを味わう山縣の姿を見ることができたらう。



ある日のスケジュール

9:00	●	出社・メールチェック	15:00	●	施工管理員とともに方針を決定し、工事長に報告
10:00	●	現場へ向かい、工事の施工業者から報告があった箇所について確認	16:00	●	工事の進捗状況の確認、資産に関する確認などの依頼への返信対応
12:00	●	お昼休み	17:00	●	翌日に向けた準備
13:00	●	現場で出た課題について資料・要領を調べるなど、今後の方針を固めるための準備を行う	18:00	●	退社

PROFILE

関西支社
新名神大津事務所
大津大石工事区
＜土木＞

山縣 美和
YAMAGATA MIWA

2019年入社
工学部 市民工学科 卒



入社動機

小さい頃からものづくりが好きで、土木を学べる工学部に進みました。高速道路は、物流を担うだけでなく、モノと一緒に想いを届けることのできる、人々にとって欠かせないもの。私たちの生活にとって大きな意味をもつ、ものづくりに関わりたいと入社を希望しました。

私のふるさと

〔福岡県〕

とんこつラーメン、もつ鍋もちろんおいしいですが、豚バラ串が私の大好物です。地元糸島の海の景色は本当に美しく、一度住んだら離れたくなくなる場所です。

これまでの経歴

2019年4月 ○ 入社
2019年6月 ○ 関西支社
滋賀高速道路事務所 統括課
2021年8月 ○ 現在の部署へ

オフの過ごし方

入社後に先輩からの勧めでゴルフを始めて以来、どっぷりとハマっています。ゴルフを通じて年齢や役職も関係なく、ぐっと距離が近くなるので心から楽しめています。



01 3 建設事業 施設工事担当 施設 [電気]

災害によって感じた、
高速道路を守る仕事の重責。
「安全・安心な道路をつくりたい」という
思いを胸に、新しい道路における
施設設備の建設を担う



PROFILE

関西支社
和歌山工事事務所
施設工事区
〈施設(電気)〉
古川 隆一
FURUKAWA RYUICHI
2016年入社
工学部 電気電子システム学科 卒



入社動機

「多くの人に影響を与えられる仕事」に就きたいとインフラ業界を中心に仕事を探していました。また、大学で学んでいた電気の分野だけではなく機械・通信・建築など幅広い分野に携われることからNEXCO西日本を志望しました。自分と関わりの深い西日本エリアに貢献できるということも決め手になりました。

私のふるさと

〔佐賀県〕
私の地元は自然豊かでのどかな地域。地域の人たちはだいたい顔見知りなので、玄関も開けっばなしなんです。ちょっと都会に行きたいなと思ったら、隣の福岡まで足を伸ばします。

災害によって感じた、自分の仕事の重み

平成30年7月豪雨。入社3年目の古川は、山口高速道路事務所に所属していた。中国地方の至る所で停電・断水が起こり、生活に必要なライフラインがストップしてしまった。古川は本社からの要請を受け、雪氷車両に水を積み、広島へ向かった。雪氷車両とは路面に凍結防止剤を散布する際に使用する車で、非常時には飲料水を積むこともできる。「復旧するまでの間、住民の方に手渡ししてお水を渡しました。地域の役に立てたと、NEXCO西日本に入った意味を改めて感じた出来事でした」古川は同年、またしても大きな災害に遭遇することになった。9月に台風21号の影響で起こった「関空連絡橋タンカー衝突事故」だ。タンカーが衝突し、連絡橋が使用不能になった。そんな渦中での着任だった。何をしたら良いかもわからぬまま、古川は現場に向かった。「取り急ぎ、連絡橋を使えるようにするのが目下の目標でした。どこに何が必要で、どのように復旧させるのか、現場の状況を確認しつつみんなで相談して作業を進めていきました。上司の姿を見ながら、自分は何をすべきか考えて動くことが求められました。緊急時にあるべき姿が学べ、貴重な経験を積むことができました」古川は、高速道路を守るという重責を痛感したという。唯一無二のものに関われるよころびと重みを同時に感じた一年になった。

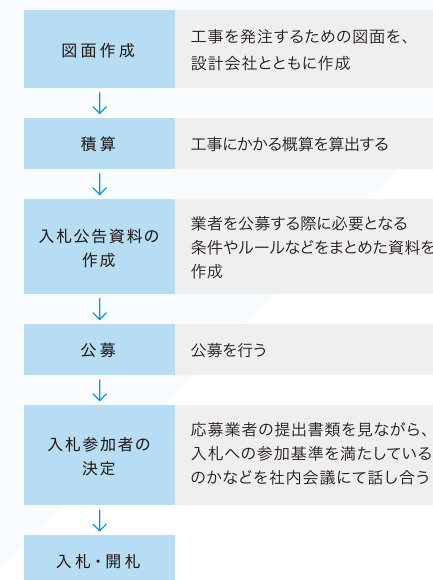
未来のことをふまえて、関わる人の手間を考えた仕事を

現在、古川は有田インターチェンジ(IC)から印南ICの4車線化により必要となる、新たな施設設備の建設を担当している。トンネル内の照明や電気の実配電盤、ETC設備など、担当する範囲は幅広い。「これまでに完成している施設設備の管理などを通じて、保全の知識を身につけてきたので、修繕しやすい形を目指して作りたいという思いがあります」これまでの仕事の中で、保全を行う担当者の大変な苦勞を見てきたからだという。しかし、工事には期限もある。現場で出た問題点に対して、関係者を集めて打合せを実施し、最速で解決へ持っていかなければならない。どう問題解決していくか考えるほど、たくさんの知識を身につける必要性を感じる。期限やクオリティだけでなく、安全に工事が行われるかどうかにも注視しなければならない。書面だけで判断することなく、現場で何がどのように行われているのかを確認するのも古川の大切な仕事だ。「ただ見るだけでなく、現場では『勉強になります』『ありがとうございます』など感謝の気持ちなどをきちんと伝えることを心掛けています。工事を円滑に進めるためには、コミュニケーションが大切だと思うので」今は事務所の総力をあげて開通に向かって進んでいる最中だ。安全・安心で快適な道路を完成させたいという思いを胸に、今日も古川は現場へと足を運ぶ。

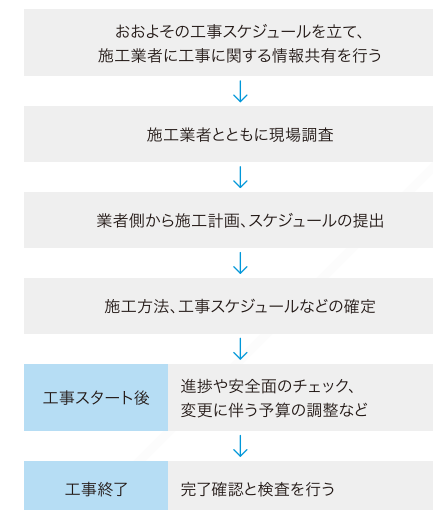


業務の流れ

〈工事の事前業務〉



〈工事開始後の業務〉

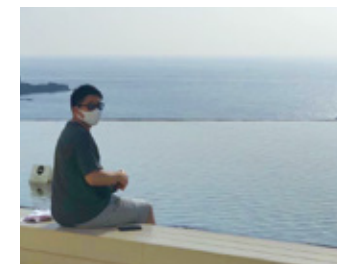


これまでの経歴

2016年4月 ○ 入社
2016年6月 ○ 中国支社
山口高速道路事務所 施設第一課
2018年9月 ○ 関西支社
保全サービス事業部 施設保全課
2020年6月 ○ 現在の部署へ

オフの過ごし方

コロナ前はいろんな地方へ旅行に行っていました。今は和歌山県内で日帰り温泉を楽しんでいます。





02

守る

保全サービス事業

OPERATION AND MAINTENANCE

主な業務

お客さまに安全・安心、快適な
高速道路サービスを提供するための業務

- 維持修繕 ● 老朽化対策（リニューアル）
- 災害対応 ● 交通安全対策 ● 料金企画・収受
- 道路・不動産管理 ● 交通管理 ● 施設制御

100年先の未来のために
高速道路ネットワークを守る。
安全・安心なサービスは
日々の業務の
積み重ねの上にある

現在進行中の主要プロジェクト

NEXCO西日本が管理する高速道路の約5割が
開通から30年を超え、老朽化が進んでいます。
高速道路ネットワーク機能を長期にわたって維持するため
橋梁やトンネルなどの構造物をリニューアルする、
「高速道路リニューアルプロジェクト」を進めています。



02 1 守る 保全サービス事業 大規模更新担当 事務

“大都市圏での橋梁架け替え”
という、前例のない挑戦。
調整や手続き面で、
縁の下からサポートする
「管理課」の仕事



PROFILE

関西支社
阪神改築事務所
管理課
＜事務＞

山西 修平
YAMANISHI SYUHEI

2016年入社
経営学部 経営学科 卒



入社動機

大学在学時に、震災ボランティアとして岩手県陸前高田市を訪れました。住民の方たちと交流するうちに、地域の魅力を伝えられる仕事に就きたいと感じるように。震災当時は仙台から3時間ほどかかったのに、高速道路が開通したことによって2時間ぐらいで行けるようになりました。距離や時間を縮めることは、地域の活性化につながるかなどと思い、志望しました。

私のふるさと

〔兵庫県〕

異国情緒あふれる神戸の街、自然豊かな六甲山、さらに有馬温泉や姫路城など、見所がたくさんあることがふるさとの魅力です。

大都市圏で初の 橋梁の架け替えを担当

日本で高速道路が初めて開通してから、60年近くが経過した。これまで部分ごとに修繕を繰り返していたが、構造物そのものが老朽化してきている。そこで道路をリニューアルするプロジェクトが始まった。現在は、吹田ジャンクション(JCT)から神戸ジャンクション(JCT)間の橋を架け替えるための工事を行っている。その工事を担当しているのが、山西が所属する阪神改築事務所だ。山西の業務は、工事を円滑に進めるための下準備。例えば、高架下には沿線自治体が管理する公園などの施設があるため、それらを工事開始前に撤去しなければならない。工事終了後には工事開始前の状態に復旧するので、撤去・復旧両方の手続きが必要となる。また、撤去した古い橋の部材を破砕するための土地の確保、高速道路と鉄道が交差している箇所の工事にかかる鉄道会社との調整、工事に伴い必要となる道路区域変更申請など、工事開始前に行う手続きのほとんどを、山西たち管理課が担っている。「日々刻々と状況が変化するため、常に最新の情報を自分から取りに行くように意識しています。施工方法や工事現場に関することは技術部門の担当。技術部門の担当者と密に連携を図りながら、時には現場に足を運んで確認するなど、抜け漏れがないようにしっかりチェックしています」関係各所と調整しながら、手続きを進めていく。関わる人の数も、何百人にものぼる。

ゼロから作り上げる 難しさとやりがい

「決まったルールに合わせて、業務を遂行することが得意」と自分を分析する。そんな山西にとって、前例がない現在の仕事は、苦手と感じることもあったそうだ。以前、鉄道が交差する箇所における工事で、鉄道事業者への業務委託が必要になり、鉄道事業者との間で協定を締結することになった。しかし過去に同様の事例がなく、多くの関係者と調整しながら進めていくこととなった。山西はチームの仲間と知恵を絞り、少しでも似たような事例がないか調べて、協定書に落とし込んでいった。「ゼロから作り上げる難しさを感じながらも、新たな発見や学びもあり、自分の成長を実感しています」前例のないことに取り組むことは、想像以上に困難なことかもしれない。けれど、その一つ一つを山西たちが乗り越えてきたことによって、道ができた。それはNEXCO西日本、そして後に続く後輩たちにとって財産となるのだ。



山西が担当する職務内容

支障物件移転	高架下の空間を、橋梁架替工事の施工場所として確保するための手続き。既存の施設(公園等)の撤去や工事後の復旧にかかる施設管理者との協議など。
借地	工事関係車両の待機場所や撤去した古い橋の部材の仮置き場所の借地契約手続き。
協定	鉄道交差箇所の橋梁架替工事における、鉄道事業者へ委託する業務等を定めた協定の締結など。
道路区域変更・供用開始手続き	橋梁架替工事に伴い必要となる道路区域変更にかかる手続きや、その後の供用開始にかかる手続き。

これまでの経歴

2016年4月 入社
2016年6月 中国支社 総務企画部 経理課
2018年7月 独立行政法人 日本高速道路保有・債務返済機構 経理部 資金課(出向)
2020年7月 現在の部署へ

オフの過ごし方

学生時代はサッカーに打ち込み、今でも高校のサッカー部の仲間とチームを作って活動しています。週末はもっぱら練習が試合です。



02 守る 2 保全サービス事業 大規模更新担当 土木

中国自動車道を100年先も
安心してご利用いただくために
必要なりニューアル工事。
前例のない大規模工事に挑戦する
チームのために
工事を推進する力となる



かつてない規模のリニューアル工事がスタート

2021年6月27日、39日間の中国道 吹田JCT～中国池田IC間の終日通行止めを解除し、新しく生まれ変わったばかりの中国道を走行する古賀の表情は安堵に満ちていた。2016年度から始まった「特定更新等事業（通称：高速道路リニューアルプロジェクト）」。長期間に及ぶ大規模な規制を行って、橋梁の桁や床版など路面を支える主要な部材を集中的に取り替える。吹田JCT～中国池田IC間では、2021年度から22年度末まで、約1.5カ月程度の終日通行止めを6回行い、また中国池田IC～宝塚IC間では、2024年上半年期まで交通混雑期を除いて終日車線規制を行い、リニューアル工事を進めていく。このプロジェクトを推進する改築課に所属する古賀は、工事を実施するための全体計画や工事等の契約手続き、関係機関や関係部署との協議・調整など、事務所の担当者が工事の指揮に集中できるよう調整し、現場で生じた技術的な課題などを解決するためのサポート役を担う。「社会的な影響が非常に大きい工事であることから、工事の必要性や交通情報などをできるだけ早く多くの方にお伝えできるよう努めました。また、技術的な課題には速やかにかつ最善の対策を行う必要があるため、情報収集と対応案の検討、関係者との調整を行い、現場を止めることのないよう奔走しました」調整すべきことが山ほどあり、さらに関係者も多岐にわたる工事だが、古賀は、上司から学んだ「ワンデーレスポンス」に準じ、素早い回答と丁寧な説明に努めた。こうして各方面の理解と協力を得て、リニューアル工事を進めている。



円滑な工事進捗のため入念に調整を進め、 新技術を導入、世間に情報発信する

中国道 吹田JCT～中国池田IC間のリニューアル工事で架け替える橋の延長は、約4.8kmと非常に長く、できるだけ短期間に工事を進めるための工夫が必要だった。そこで、民間の技術やノウハウを導入できる会社初となる契約手法を用いて手続きを行い、通常のクレーンを使った架設以外に、高速道路の橋の架け替えでは日本初となるジャッキアップ工法を取り入れた。「別の場所でリハーサルも行い入念に準備しました。こうした新しい手法や技術を積極的に採用していくのも、NEXCO西日本らしいところかもしれません」プロジェクトについて一般の方に理解いただくため、テレビの報道番組にも出演し、案内役を務めた。「このような大規模な工事は、利用されるお客さまや周辺住民の方々のご理解・ご協力が必要不可欠です。プロジェクト

を理解いただくための動画を作成したり、進捗情報を公開したり、工事の様子を集約したタイムラプス動画をYouTubeにアップしたりと、工事の“見える化”に取り組んでいます」プロジェクトは始まったばかり。高速道路の安全・安心のために、工事が円滑に進むよう古賀は調整を続ける。「吹田JCT～中国池田IC間の通行止めを解除し、お客さまが通行しているのを見たとき、自分が建設事業で携わった新名神高速道路（川西IC～神戸JCT間）が開通したときと同じような感覚を味わいました。新しく造ることも、造り替えることも、高速道路の“安全・安心”に貢献しているのだと、改めて実感しました」

PROFILE

関西支社
保全サービス事業部
改築課
＜土木＞

古賀 泰輔
KOGA TAISUKE

2013年入社
建設システム工学専攻 修了



入社動機

ゼミでのり面のグラウンドアンカーに関する研究をしていたことからこの業界を志望。就活中に会ったNEXCO西日本の社員の人柄や自分の失敗談を交えながら仕事のリアルをおもしろおかしく話す姿に魅力を感じ、入社を決めました。

私のふるさと

〔 富山県 〕と〔 福岡県 〕

富山は自然が豊かで、住みやすい街No.1（自己評価）。福岡は食べ物がなんでもおいしく、学問の神様がいらっしゃる（太宰府天満宮）場所。どちらも魅力あふれる場所です。

これまでの経歴

2013年4月 入社
2013年6月 関西支社 大阪高速道路事務所 改良第一課
2015年7月 関西支社 新名神兵庫事務所 宝塚工事区
2017年10月 関西支社 新名神兵庫事務所 猪名川宝塚工事区

2018年3月 関西支社 新名神高速道路 川西IC～神戸JCT間 開通
2019年4月 関西支社 阪神改築事務所 宝塚工事区
2020年9月 現在の部署へ

オフの過ごし方

夫婦共働きなので転勤特例制度（自宅から通勤可能な範囲での転勤に限定）を活用し、家族との時間を大切にしています。休日にはもっぱら家事と2人の子どもの育児に専念しています。写真は、ハロウィーンの仮装。子ども：かぼちゃ 自分：バス停 妻：囚人。

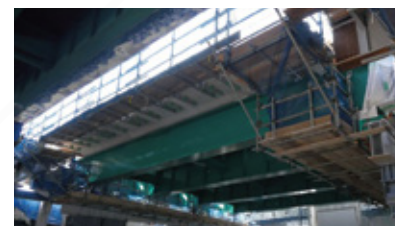


中国道リニューアルプロジェクト

吹田JCT～中国池田IC
中国道リニューアル工事の裏側
～橋の架け替えの一部始終～



ジャッキアップ工法による架設



ジャッキアップ工法：既設の橋の下にあらかじめ新しい橋を造って準備し、通行止め後に既設の橋を撤去。新しい橋を下から持ち上げて架設する

取材の様子



1000t吊りクレーンによる橋の一括架設





02
守る

保全サービス事業
施設保全担当

施設
[建築]

快適な空間づくりも、
安全・安心を守るための業務も
すべては、利用してくださる方のため。
未来のために、積極的に動く

PROFILE

九州支社
佐賀高速道路事務所
施設課
＜施設(建築)＞

濱 千鶴
HAMA CHIZURU

2019年入社
建築学科 卒



入社動機

普段、高速道路を利用していたこともありSA・PAは身近な存在でした。多くの人に使ってもらえる施設の建築に携わりたいと思っていたこともあり、公共性の高い施設に携われるNEXCO西日本を志望。多様な業務に携われる点も魅力に感じました。

私のふるさと

[福岡県]

豚骨ラーメン、うどん、もつ鍋、水炊き・・・などなど
ごはんがおいしいです！

計画から工事へと、 丁寧な仕事で次へつなぐ

現在、佐賀高速道路事務所で、金立SAの改修や自分たちが普段働いている事務所そのものの増改築に向けた設計・発注、ETC設備更新業務などを担当する濱。建築学科を卒業し、商業施設や公共施設等、みんなが使う施設づくりに携わりたいと入社した。「希望が叶い、最初の配属先の中国支社で、中国自動車道 王司PAの改築工事の計画・設計に携わることができました。先輩に同行し、実務を通して学ぶことができました」休憩施設の店舗とトイレの一体改修を行う大がかりな改築工事。この仕事で、濱はその後の業務につながる大きな学びを得た。それは、自分なりに考えて作成した現地調査報告書を上司に提出したときのことだ。資料を見た上司から「これは30点だ」と言われ、濱はショックを受けた。しかし、すぐにどのよう

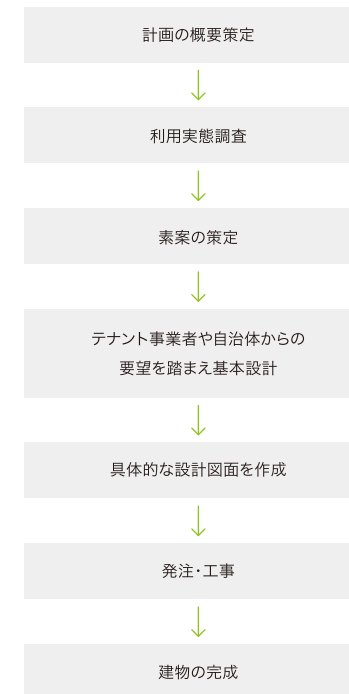
に作成すべきか資料作成の目的やポイントを丁寧に説明してくれ、再提出の際には褒めてくれたという。「今は、その意味がよくわかります。私が数年前に作成した資料をもとに、今、実際の工事が進められています。自分一人で進められる仕事はほとんどありません。自分がやる仕事は誰かから引き継ぎ、そして誰かに引き継いでいく。資料はその大切なバトンのようなもの。その継続があって初めて建物や設備が完成し、高速道路サービスとして提供できるのです」スケールが大きく、スパンの長い仕事。それ故に、一人ひとりの丁寧な仕事がいよいよサービスにつながると濱は悟った。

豪雨災害の緊急対応と 復旧業務にあたる

事務所所属の施設系社員は、建築・機械・電気・通信の4つの分野すべてを担当する。濱も、通信分野のETCや情報ターミナル設備の更新、機械分野の雪氷施設の更新業務に、日々携わっている。さらに、非常時には特別体制で業務にあたる。安全・安心を守る最前線でもある事務所のメンバーとして、お客さまの安全のために全力を尽くす。「2021年8月、佐賀高速道路事務所へ赴任した直後、北部九州豪雨災害を経験しました。初めての災害対応に戸惑いながら、必死に対応しました」前線の影響で大雨の予報が出ると、社員たちが続々と防災対策室へ集まった。濱は、お客さまの安全確保のため、SA・PAを回って高速道路を降りていただくよう説明する案内係を務めた。豪雨によって、長崎自動車道の東春振IC～佐賀大和IC間は、のり面変状がみられたため通行止めに。すぐに応急復旧が行われた。本復旧では、土木系社員がのり面の施工を行う中、濱は、のり面災害等の発生予測や早期発見を行うための監視カメラ設置業務を担当した。初めて担当することばかりだが、濱の目に迷いはない。「これから建築以外の、機械・電気・通信の知識も身に付け、設備更新の際には、災害時も想定して取り組みたいと思います」安全・安心を守るため、施設系社員として積極的に動く。それが今の目標だ。



SA・PA 改修・改築の流れ



これまでの経歴

2019年4月 ○ 入社
2019年6月 ○ 中国支社
建設改築事業部 施設改築課
2021年8月 ○ 現在の部署へ

オフの過ごし方

異動で、実家のある福岡が近くになったこともあり、よく甥っ子と遊んでいます。学生時代の友達と近隣の観光地に行ったり、カフェでランチを楽しんだり。きちんと休みが取れるのも魅力です。





03

高める／広める／支える

事業開発／新規事業／
技術開発／環境保全／
海外事業／コーポレート

BUSINESS DEVELOPMENT／NEW BUSINESS／
TECHNICAL DEVELOPMENT／ENVIRONMENT／
OVERSEAS BUSINESS／CORPORATE

技術やサービスを高め、
地域に賑わいと安心を。
高速道路の可能性を広げ、
事業と人を未来につなぐ

主な業務

休憩施設(SA・PA)の企画開発や新規事業、技術開発・環境保全、海外への技術外販や技術協力など、高速道路という経営資源や技術を活かした事業を展開。コーポレートでは経営と社員の活躍をささえます。

03 1 高める 広める 支える コーポレート 経営企画／CSR推進担当 事務

高速道路という大きな社会インフラ。

造り、守り、高め、広め、支える、様々な業務がある。

グループ理念を大切にしながら、

今与えられた「経営企画」「CSR推進」

というミッションを遂行する

大切な気づきを

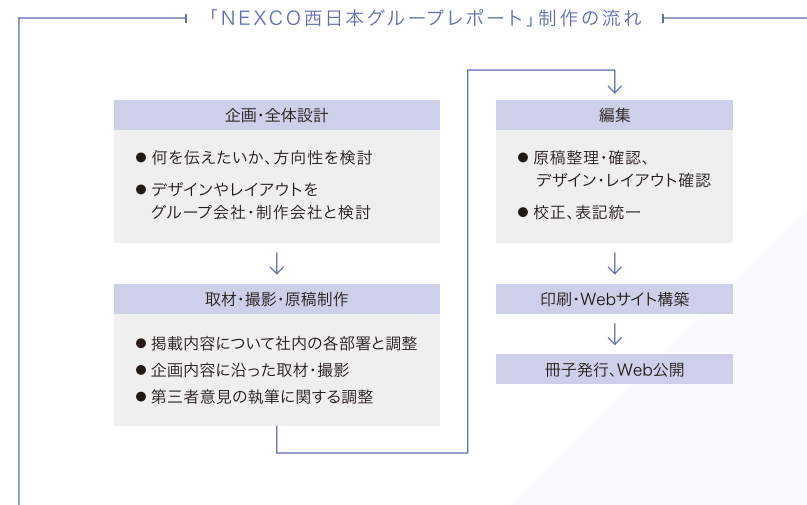
与えてくれる人たちとの出会い

「私たちは、高速道路の安全・安心を最優先に、高速道路の進化に挑み続け、地域の発展と豊かな未来の実現に貢献します。」というNEXCO西日本のグループ理念、私たちが今やるべきことは、この一文に集約されているんだよ」経営企画部に異動し、上司からそう教わったとき、本当にその通りだと感じたという金本。「経営企画は、会社としての方向性を検討するという、これまで取り組んだことのない大きな視点での業務。ここで判断したことが、経営や社員の業務に大きな影響を与えます。迷ったら理念に戻り、検討に検討を重ね、最善を尽くしたいと思います」そのとき、ふと、入社1年目に配属された新名神京都事務所の用地課で、一緒に働くグループ会社の先輩から言われた言葉を思い出したという。「金本さんは、自分がブルーのユニフォームを着ている意味を考えて働きなさい」ブルーのユニフォーム、それは、NEXCO西日本を代表して地域の方々や関係者に接し、責任ある対応をとらなければならない印のようなもの。その言葉が今でも業務に対する姿勢の基礎になっているという。「どの部署に行っても、尊敬できる方々との出会いや魅力ある仕事があります。それは、NEXCO西日本の宝物かもしれません」

NEXCO西日本を代表して、

CSRやSDGsの取り組みを発信

金本は、現在、ふたつの課を兼務している。経営企画課では、会社の組織改正や経営リスク管理、業務改善など、社内をよりよくするための業務を推進。もう一方のCSR推進課では、会社のCSR(corporate social responsibility:企業の社会的責任)活動の状況やSDGsへの取り組みを総括し、「NEXCO西日本グループレポート」という冊子やWEBサイトを作成して、社内外に広く情報発信していく業務を担当している。国連グローバル・コンパクトやGRI、環境省ガイドラインなど、CSRに関して参考とする指標は多い。「グループレポートは、すべてのステークホルダー向けに、NEXCO西日本のCSR活動の状況やSDGsへの取り組みを伝える、大切なツール。構成やデザインを工夫し、多くの方に読んでもらえるツールにしたいと思っています」災害時の義援金やボランティア協会との連携、大阪万博等への協力など、全社的な社会貢献に関する調整の業務も担う。こうした様々な経験ができることが金本はうれしいという。「これまで、用地取得に資金調達、交通管制と、まるで転職しているように様々な仕事を経験してきました。希望して異動したわけではありませんが、望まれて異動するほうが私には合っています。どの仕事も楽しく、やりがいがありますから」これから、NEXCO西日本を代表して、CSRやSDGsの取り組みを発信していく。笑顔で語る金本の静かな情熱がそこに見えた。

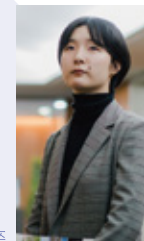


PROFILE

本社
経営企画部 経営企画課
兼務 CSR推進課
＜事務＞

金本 淳希
KANEMOTO ATSUKI

2014年入社
教育学部
学校教育教員養成課程 卒



入社動機

就職活動の軸は、「40年働く上で、やりがいを持ち続けられる会社」「絶対につぶれない会社」。その中で出会ったのが、NEXCO西日本でした。大きな社会基盤としてあらゆる事象に影響を与える仕事ができると感じ、志望しました。

私のふるさと

〔大阪府〕

パワフルで楽しい街、大阪。何でも安くておいしいところも魅力。

これまでの経歴

2014年4月 ○ 入社
2014年6月 ○ 関西支社
新名神京都事務所 用地第二課
2017年2月 ○ 本社 財務部 財務課
兼務 東京事務所 総務企画課
2019年9月 ○ 関西支社 保全サービス事業部
吹田道路管制センター 交通管制課
2021年8月 ○ 現在の部署へ

オフの過ごし方

趣味は旅行で、オランダやイギリス、ロシア・・・と長期休暇は旅行へ。業務内容によって働き方も変わるので、自分の役割や裁量に応じてプライベートの過ごし方を決めています。



03 高める 広める 支える

2

コーポレート
経営企画担当
土木

現場実務と経営企画、
両方を経験することで
見えてくるものがある。
高速道路の未来をイメージしながら、
今いる場所で全力を尽くす



事務所の業務を通し、 事業スキームへの関心が高まる

「NEXCO西日本の事業スキームや有料道路制度をもっと知りたい」現在、経営企画部で協定変更や道路建設債務の償還計画等の業務に携わる山本が、高速道路事業の制度に興味をもったのは、新名神大阪東事務所、高速道路建設にかかわる調査・設計業務を担当していたときのことだった。高速道路は国により道路の必要性が検討された後、独立行政法人 日本高速道路保有・債務返済機構（以降：高速道路機構）との協定締結、国土交通大臣の事業許可によってはじめて事業として進めることができる。時間短縮や災害時における交通代替性の確保など、整備による効果は社会的影響が大きい。この現場で山本は、地元の方への事業説明や、工事を進めるため調査・設計業務を担当した。「約1kmの短い区間に国道、私鉄、JR在来線、新幹線、名神高速道路が走る交通の要所とも言える場所を新名神高速道路が通過する計画。関係機関等との協議は大変でしたが、少しずつ事業が進んでいる実感があり、手応えやよこびを感じました。ただそれと同時に、これだけの大きな事業の後ろにはどのような仕組みがあるのか、どのように事業化されていくのか、十分に理解できていないと感じ、制度や事業スキームへの興味が大きくなりました」山本は事業の根幹を学びたいと高速道路機構への出向を希望し、横浜へ赴任した。



高速道路や会社の未来を考える仕事

高速道路機構（高速道路の保有・債務返済を担う）とNEXCO西日本（高速道路の建設・管理・料金収受を担う）は、高速道路事業を担う両輪のような存在だ。協定によって互いのミッションを明確にし、事業を推進していく。高速道路機構は高速道路6会社、国交省等からの出向者による組織。山本は将来交通量の推計やコスト縮減制度を担当した。「上司や先輩達の知識量や視野の広さに付いていくのに必死でしたが、自分にできること、理解できることを少しでも増やせないか、いつも気を付けていました」法令や制度など、初めて目にするものばかりだったが、山本は必死に学んだ。その後、九州支社勤務を経て、山本は、本社経営企画部へ。事業計画や新規事業の検討・調整、将来の交通量・収入の算出、道路建設債

務の償還計画、組織展開まで、企業経営に関わる重要な業務を担う部門だ。ここで山本は、新たな事業を行うための高速道路機構との協定変更や債務の償還計画に関わる業務を担当している。山本は言う。「経営企画の仕事は高速道路や会社の未来を考える仕事。高速道路も「速さ」だけでなく、国土強靱化や生産性向上等、時代とともに求められるものが変化してきました。きっとこれからも様々な変化が訪れるはず。将来的にも高速道路が安全・安心を提供し続けられるような仕組みを作ること、これが私の目標です」山本の挑戦は、今始まったばかりだ。

PROFILE

本社 経営企画本部
経営企画部
経営企画課
＜土木＞

山本 悠哉
YAMAMOTO YUYA

2012年入社
都市環境システム工学専攻 修了



入社動機

応募のきっかけは、NEXCO西日本と共同研究をしていたことでしたが、就職活動中は、土木以外のマスコミや他のインフラ企業にもエントリーしました。今振り返ってみると、他社を見たことによって、改めてNEXCO西日本の魅力に気づけたように思います。

私のふるさと

〔福岡県〕
暮らしやすく、食べ物もおいしい魅力ある県。
先日家も買いました。

これまでの経歴

2012年4月 入社
2012年6月 関西支社
京都丹波道路管理事務所 工務課
2013年7月 関西支社
京都高速道路事務所 企画課
2014年7月 関西支社
新名神大阪東事務所 高規格原工事区

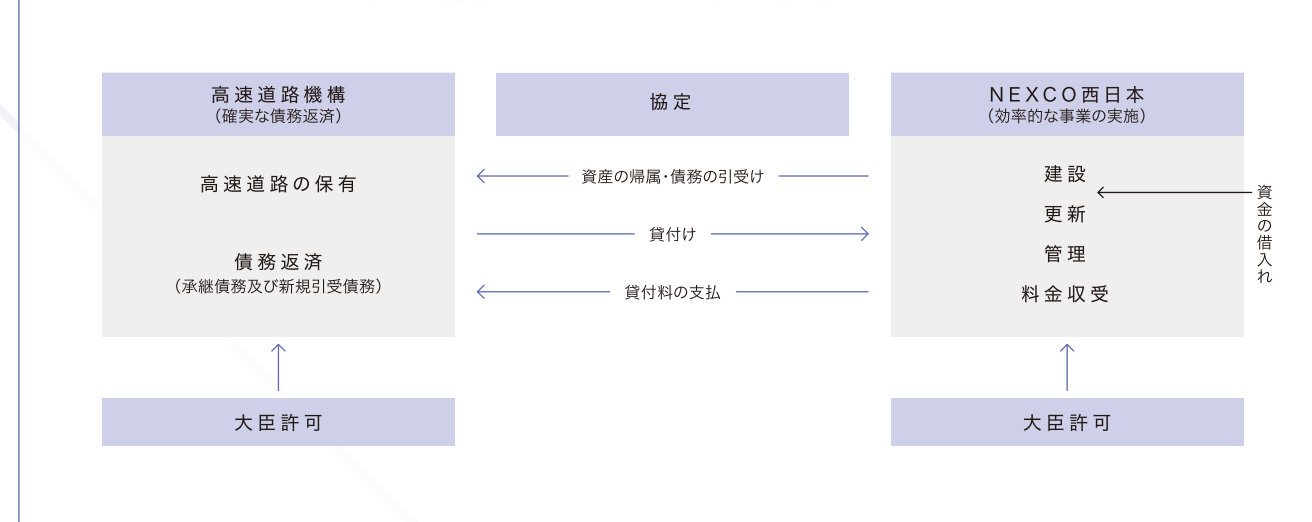
2016年4月 独立行政法人 日本高速道路保有・債務返済機構
企画部 計画調整課（出向）
2018年7月 九州支社 総務企画部 企画調整課
2021年8月 現在の部署へ

オフの過ごし方

現在は単身赴任中。月に2～3回は大阪から福岡へ戻り、家族と一緒に過ごしています。



高速道路機構とNEXCO西日本による高速道路事業の実施スキーム



03

高める
広める
支える

技術開発

技術基準・設計基準担当

施設
[通信]

次世代ETCによって

お客さまサービスをどう向上させるか？

将来を見据えながら

よりよいシステムとなるよう

検討を重ねる



PROFILE

本社
技術本部 施設部
施設技術課
＜施設（通信）＞三井 大和
MITSUI YAMATO2016年入社
情報・経営システム工学専攻 修了

入社動機

高専で学んだ土木工学の知識と大学院で学んだ情報工学、その双方の知識を活かせる会社だと感じたからです。高速道路を起点に、新しいサービスを自分たちで考えつくっていけるところに魅力を感じました。

私のふるさと

〔香川県〕

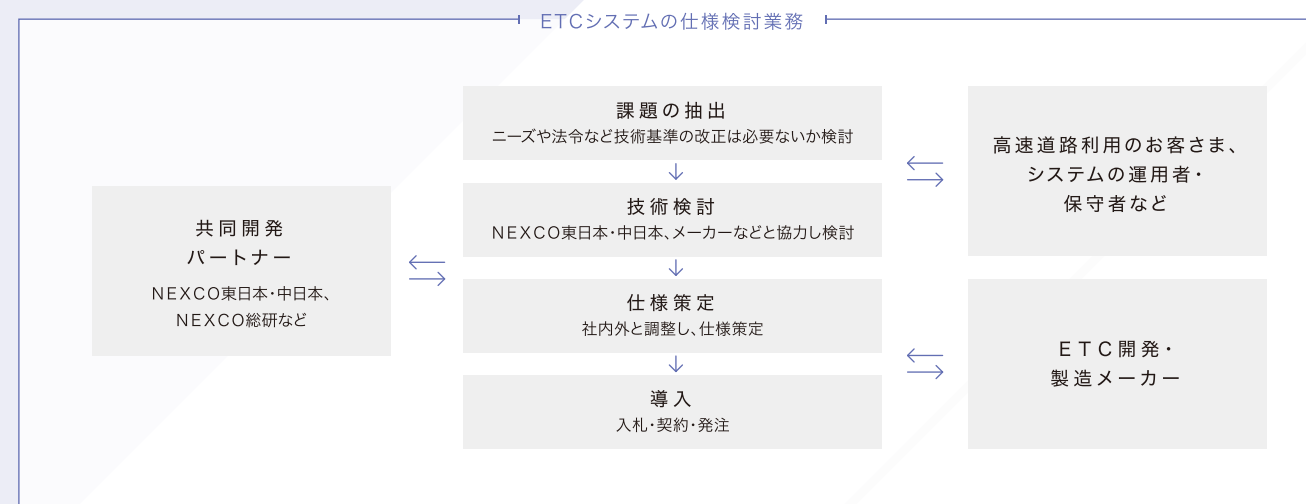
香川といえば、うどん。どの店に入っても美味しい！！ 気候も穏やかで暮らしやすいところです。

次世代ETCなどの技術基準、設計基準等を策定

高速道路の料金所を停車、現金払いすることなく通過できる「ETC」。料金所での渋滞緩和を実現するものとして、2001年から本格運用が開始しており、その利用率は9割を超えている（2021年2月時点）。ETC利用率拡大等の社会情勢の変化に合わせ、ETC専用化による料金所のキャッシュレス・タッチレス、戦略的な料金体系の導入の推進が政策として示されている。NEXCO東日本・中日本と連携しながら、このETC専用化に向けたシステムの仕様検討・策定を進めているのが施設技術課の三井だ。「これまでのサービス運用を変更するための仕様を検討しています。同じ言葉で議論していても、想定する課題や対策、将来の時期は、人によって違ってきます。NEXCO3社で展開する際に、どこまでの仕様にしていくのか決めていくのは、なかなか難しい」将来を見据え、発展可能な仕組みにする方がよいのか、コストを抑えながらスピーディーに導入できる仕様にするのか。自分たちの判断が全国に及ぶため、慎重に議論を重ねる。「高速道路の課金システムといった、国全体に影響するものに携われることに魅力とやりがいを感じています。高速道路利用のお客さまにとってよりよいシステムとなるよう、検討し作り上げていきたいと思っています」

支社と事務所で培った力を、今の業務に活かす

三井の最初の配属先は、中国支社の保全サービス事業部施設計画課だ。「施設系社員は、自分の専門分野以外にも担当します。設備の補修から休憩施設の貯水槽の水質維持・管理、社内の情報セキュリティ検査まで、本当に様々な業務を経験しました」中でも交通管制システムに興味をもった三井は、管轄路線が1つであるためミニマムなかたちで交通管制システム全体を学べると思い、沖縄高速道路事務所を希望。それが叶い、沖縄でシステム運用や無線システムの構築等を担当した。「システムに障害が発生した際、自分でトラブルシューティングしました。そのおかげで、システムに関する知識が深まりました」また、自社以外の協力スタッフも使用できる地図アプリの開発も行った。このアプリが、台風などの災害後の通行止め解除の際に役立っている。こうした経験が、現在の仕様策定等の業務にも活かしていると三井は言う。「自分たちのアイデアや企画を、受け入れてもらえる土壤が、当社にはあります。それを高速道路のサービスというかたちにして、社会に還元できる点に魅力を感じています」三井は今後のキャリアとして、サイバーセキュリティを学ぶため、海外留学制度を利用した米国への留学を希望している。「留学で語学力と通信職としての技術力の基盤を強化し、業務を通してさらに磨いていきたいと思っています」



これまでの経歴

2016年4月 ○ 入社
2016年6月 ○ 中国支社
保全サービス事業部 施設計画課
2018年7月 ○ 九州支社
沖縄高速道路事務所 施設課
2021年4月 ○ 現在の部署へ

オフの過ごし方

旅行、特に温泉が好きなので、まとまった時間が取れば出かけていって旅を楽しんでいます。また、技術力向上、自己研鑽のために資格取得にも力を入れており、今年はシステム監査技術者やシステムアーキテクト、電気通信施工管理技士といった資格を取得しています。



「自律」と「成長」を図る 人材開発

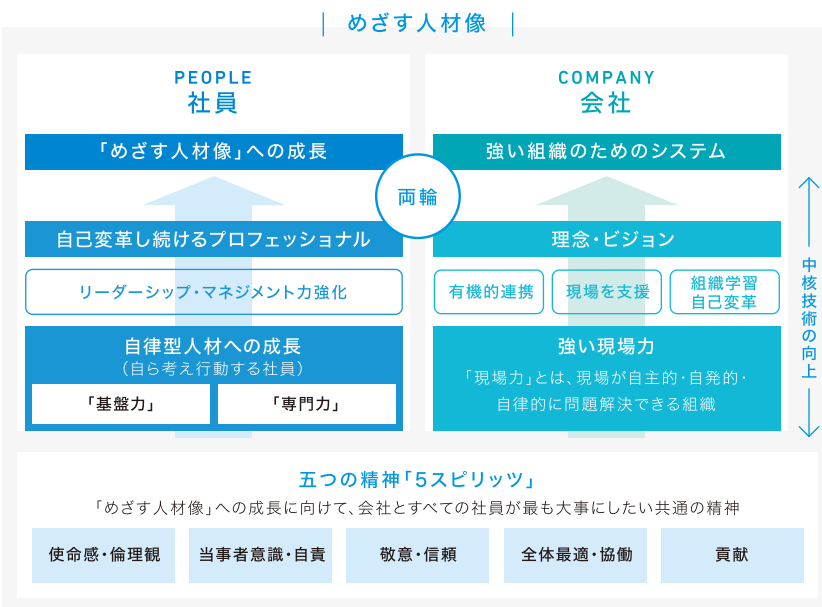
NEXCO西日本の事業は幅広く、社内には数多くの部署や職種があります。

文系理系を問わず、一人ひとりの適正・能力が活かせる環境で、
業務を通じて成長できるよう様々な人材開発を行っています。

NEXCO西日本のめざす人材像

「現場主義に徹して、自ら行動し、
自己変革し続けるプロフェッショナルな人材」をめざして

NEXCO西日本がめざすのは、「100%の安全・安心」を追求すると共に、円滑で快適な高速道路サービスを提供し、国民の皆さまから信頼し続けられる企業であること。そのためには、社員一人ひとりが目的意識を持ち、自ら考え行動し、現場の状況に即した、スピーディーな対応をとることが重要です。仕事や社会人としての基礎となる「基盤力」と、豊かな「専門力」を併せ持ち、向上心と共に自らを磨き続けるプロフェッショナルな人材。それが、NEXCO西日本がめざす人材像です。また、強い組織づくりの最大の要は「現場力」です。安全・安心を最前線で支える現場が、自主的・自発的・自律的に問題を解決できる組織であること。そのために、みんなで現場を支えるという共通認識を持って組織づくりに取り組んでいます。そうすることで、「100%の安全・安心」が実現できると私たちは考えます。



ジョブローテーション制度

幅広い業務を経験し、キャリアアップをめざす

NEXCO西日本では、社員一人ひとりの能力を伸ばすために、様々な部署への人事異動「ジョブローテーション」を実施しています。多様な能力を身に付け、あなたが思い描くキャリアに向けて、じっくりと力を付けていくことが可能です。また、キャリアや目的に応じた内容充実の研修制度があります。

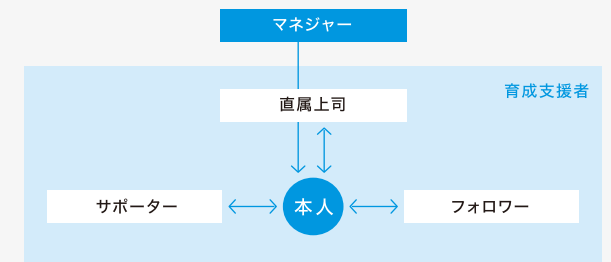


ステップアップのための仕組み

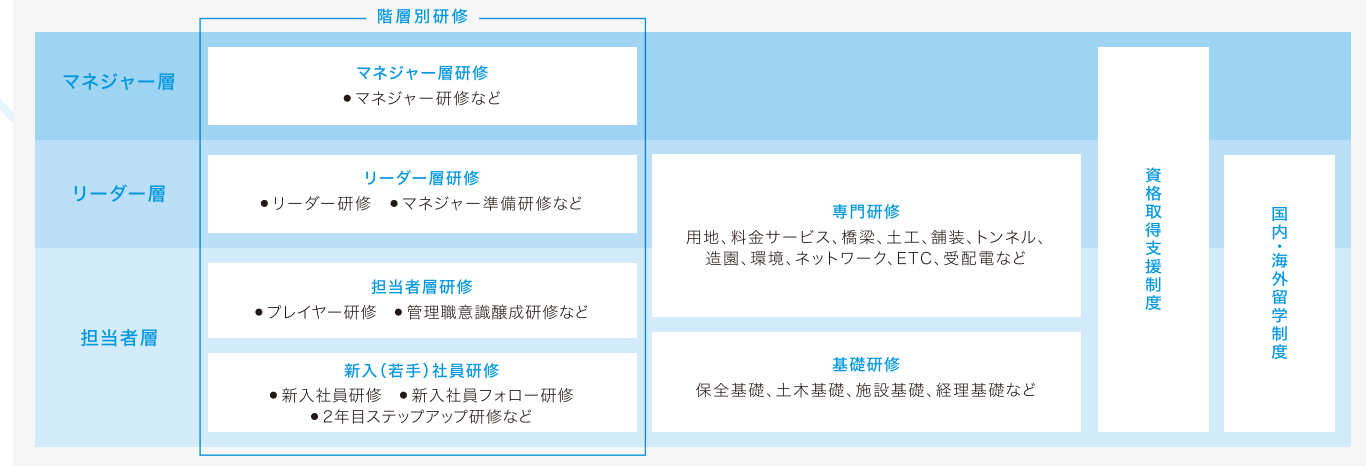
キャリアや目的に応じた
研修を実施

当社では、自立・成長を支える人材開発のための様々な研修を実施しています。
【新入社員研修】で会社の基礎知識やビジネスコミュニケーションを修得した後も、配属先の先輩による【新入社員サポート制度】を設け、新入社員の早期成長を支援します。キャリアに応じて求められるスキルを身に付けることを目的とした「リーダー研修」や「プレイヤー研修」などの【階層別研修】や、担当業務に応じた知識・技術の習熟をめざす【専門研修】など幅広い内容で実施しています。その他にも、それぞれの自発的な成長を応援する【資格取得支援制度】や【留学制度】など、将来に目を向けた制度も充実しています。ぜひ積極的に学びのチャンスを活かしてほしいと思います。

新入社員サポート体制



研修制度



茨木技術研修センター

体験型研修施設で技術力を養う

100%の安全・安心の追求や道路資産の永続的な健全性確保をめざし、専門技術力を養うことができるよう、大阪府茨木市に「未来につなぐ道の学校茨木技術研修センター」【Ibaraki technical TRaining center: 愛称I-TR(アイトレ)】を開設しました。この研修施設には、劣化損傷した実橋梁などの道路本体構造物の供試体や通信設備、ETC・料金設備などの模擬設備も設置。点検や診断といった技術に関わる研修のみならず、接客対応研修なども行う高速道路事業の総合的な研修施設です。



社員一人ひとりが 活躍できる環境を整備

多様なバックグラウンドを持つ社員がいきいきと活躍できるよう、NEXCO西日本は、ダイバーシティを推進すると共に、様々な福利厚生制度で毎日の暮らしをバックアップしています。

ダイバーシティの推進

すべての社員がより活躍できる組織をつくる

NEXCO西日本では、社員一人ひとりの考え方や価値観などの違いを互いに認め、「多様な意見」に耳を傾け取り入れることを大切にしています。

個人が持つ力を100%発揮できる組織になるために、社員一人ひとりの意識をかえていくことや、その活躍を支援する制度づくりに取り組んでいます。



仕事と生活の両立を支援

全社員が“仕事も生活も”充実できる制度を構築※1

■育児関係制度の一例

	妊娠	6週間前	出産	8週間後	1歳	3歳	小学校入学	8歳	小学校 3年生修了
女性社員	時間外・深夜勤務の制限								
	健康診査等による勤務免除								
	通勤緩和	産前・産後休暇							
全社員共通	妊娠・出産・育児と仕事の両立支援面談								
	転勤特例制度(出産)※2			転勤特例制度(育児)※2		地区限定制度※2			
				育児時間のための勤務免除					
				育児休業(開始日から1週間は有給)					
				時間外・深夜勤務の制限					
				育児短時間勤務、子の看護休暇					
男性社員			配偶者出産休暇						
	子の養育休暇								

※1) その他にも介護関係制度などの両立支援制度がありますので詳細は採用WEBサイトをご覧ください ※2) 転居を伴う異動の免除等(要件を満たす方)

福利厚生

充実した福利厚生で毎日をバックアップ

社員が安心して仕事に取り組めるよう、様々な施設や制度を用意しています。

また、ジョブローテーションで転居を伴う異動があった場合も、スムーズに新任地で勤務できるよう支援します。

福利厚生

施設	独身寮、世帯用社宅、特別宿泊施設・スポーツ施設(優待価格で利用可能)など
保険年金	健康保険(介護保険含む)、厚生年金保険、雇用保険、労災保険、確定給付企業年金、企業型確定拠出年金
制度	住宅購入補助、家賃補助、住宅資金貸付、財形貯蓄、健康管理(人間ドック受診料補助)レクリエーション制度(カフェテリア方式のポイント制による余暇活動支援、通信教育講座の受講料の一部補助)など転勤特例制度(出産・育児・介護など一定の条件を満足する場合に、一時的に転勤を伴う異動を免除)ウォーキング制度(ウォーキング歩数等に応じてレクリエーション制度のポイントを付与)

休日休暇

- 土・日曜日、祝日、年末年始6日
 - 年次有給休暇 毎年20日(次年度以降は前年繰り越しと合わせて最大40日)
 - ポジティブ休暇 年間8日※(年次有給休暇とは別に休暇の取得を促進する休暇)※2021年度実績
 - 創立記念特別休暇 毎年4月から10月の間に1日
 - ボランティア休暇 年間5日
 - 結婚休暇 連続する5日以内
 - 裁判員休暇
- ※その他の休暇制度は採用WEBサイトをご覧ください



平均勤続年数

15.9年
(2020年度実績)

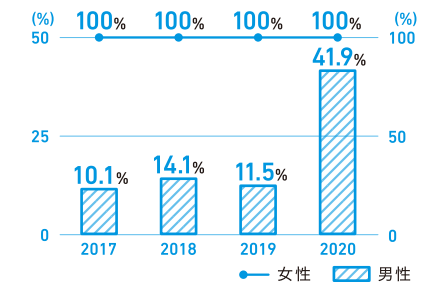


有給休暇取得実績

17.1日
(2020年度実績)



育児休業取得実績



福利厚生

Q & A

Q1. 寮や社宅はありますか？

A1. 勤務地に応じて、独身寮や家族社宅(借り上げ含む)をご用意します。また、個人で賃借される方には、家賃補助を支給します。

＼利用者の声／

社宅の手配や引越しの手配などは会社で行ってくれるので、引越しに伴う手続きが負担になることはありませんでした！

Q2. レクリエーション制度とはどんな制度ですか？

A2. 心身ともにリフレッシュし、また、毎日の生活を健康で、安心、充実したものにしてもらうことを目的とした制度です。旅行・宿泊利用補助、エンターテインメント・文化施設利用補助、スポーツ施設利用補助、各種スクール補助などの様々なメニューから好きなものを選択し利用できます。

＼利用者の声／

遊園地のチケットを購入して家族と行きました！自己啓発にも利用できるので、次は英会話教室に通おうかと考えています。

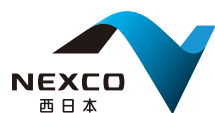
Q3. 年次有給休暇の取得実績はどれくらいですか？ ポジティブ休暇とはどんな休暇制度ですか？

A3. 年次有給休暇などの取得実績は17.1日です。(2020年度実績) ポジティブ休暇とは、年次有給休暇とは別に、休暇を前向きに捉えて余暇を充実させ、仕事への意欲向上、地域経済の活性化にもつなげてもらいたいという趣旨で創設した会社独自の制度です。社内では「ポジ休」という愛称で浸透しています。

＼利用者の声／

ポジ休を利用して連休にし、福利厚生の一環として特別価格で宿泊できる施設に行きました！

みち、ひと…未来へ。



西日本高速道路株式会社
West Nippon Expressway Company Limited

〒530-0003
大阪府大阪市北区堂島1-6-20
堂島アバンザ18階



採用サイトは
こちら